

# 船舶・海洋部門



原 壽  
船舶・海洋事業本部長

## 基本戦略

- 高技術・高付加価値船で差別化する国内造船事業に加え、エンジニアリング事業及び海外造船事業の事業化を目指す

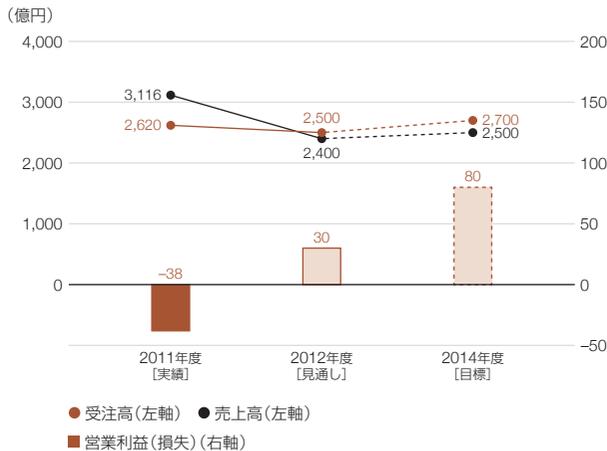
## 2012年3月期の概況

船舶需要に対して建造能力が大きく上回る厳しい市場環境が続く中、客船やLNG船を中心に受注活動を展開した結果、大型クルーズ客船を2隻、新型「さやえんどう」船型のLNG船4隻、潜水艦1隻、海洋研究船1隻等合計12隻を受注することができました。この結果、連結受注高は、前年度を大幅に上回る2,620億円、2011年度末の新造船契約残は40隻、約210万総トンとなりました。

連結売上高は、自動車運搬船7隻、巡視船5隻、コンテナ船3隻、LPG船2隻等合計25隻を引き渡したことにより、前年度を上回る3,116億円となりました。営業損益は、円高の進行等により前年度から悪化し、77億円の損失となりました。

また、船舶生産用設備の拡充を目的とした76億円の設備投資を実施し、研究開発については、客船、LNG船・フェリー・自動車運搬船をはじめとするエコシップ及び大型海洋構造物など、並びに市場ニーズに対応した省エネ機器・装置等の研究開発に70億円の投資を実施しました。

## 2014年度 目標



## 船舶・海洋事業本部と事業ドメインとの関係

事業ドメイン	顧客・市場	セグメント					
		船舶・海洋	原動機	機械・鉄構	航空・宇宙	汎用機・特車	その他(冷熱・工機)
エネルギー・環境	● 電力会社 ● ガス会社 ● 資源企業 (石化・鉄鋼 他)		● GTCC ● 大型火力発電 ● 原子力	● 環境プラント ● 化学プラント			
機械・設備システム	● 基礎産業(鉄鋼 他) ● 自動車 ● 流通 他		● 定置用エンジン	● コンプレッサ ● 製鉄機械 ● 搬送システム		● ターボチャージャ ● フォークリフト ● エンジン	● 空調機器 ● 工作機械
交通・輸送	● エアライン(空) ● 海運業(海) ● 鉄道(陸) 他	● 商船		● 交通システム	● 民間航空機		
防衛・宇宙	● 防衛省(陸・海・空) ● JAXA	● 艦艇			● 防衛航空機 ● ミサイル ● 宇宙機器	● 特殊車両	



客船「ダイヤモンド・プリンセス」



次世代型LNG船「さやえんどう」



MALS(三菱空気潤滑システム)

## 今後の取り組み

船価の漸減傾向は継続しており、リーマンショック前と比較し約30%の船価下落となっている一方、代替エネルギー需要によるLNG船新造需要の増大や、原油価格高騰による石油・ガス資源開発の活発化、震災影響でストップしていた内航船の代替需要が復活するなど新造船需要の期待が寄せられています。

当社は、「2012事業計画」の達成に向け、高技術・高付加価値で国内造船事業を展開するとともに、エンジニアリング\*1事業の強化や海外造船事業を推進します。

国内造船事業では、客船プロジェクト室主導による品質・コスト・工程の全体最適追求、3次元設計100%適用、工作工法の革新等により、カーニバル社向け新造客船1、2番船を玉成し、客船事業をコア事業化します。LNG船や資源探査船等の高技術／高付加価値船で他社との差別化を図ります。LNG船では、新世代MOSS型LNG船「さやえんどう」船型や高効率主機UST(Ultra Steam Turbine)の採用により約25%の燃費効率向上を図り、厳しい競争を勝ち抜きます。

エンジニアリング事業では、当社の高性能製品開発技術と経験豊富な設計技術陣により、優秀船型と省エネ技術によるエンジニアリング事業を伸張します。「造船エンジニアリング」では、顧客ニーズに応じて、国内外の造船会社と建造協業あるいは当社の設計図面をライセンスするなど省エネ船を供給します。また、「マリンソリューションプロバイダ」として、当社が独自に開発した泡の力で船底と水の摩擦抵抗を低減させてCO<sub>2</sub>を削減する「三菱空気潤滑システム(MALS: Mitsubishi Air Lubrication System)」やLNG燃料船のキーテクノロジーとなる「ガス燃料供給装置(MHI-GEMS)」などの省エネ・環境対策製品をパッケージ化して提供します。

海外造船事業では、現地有力企業との連携交流強化で市場参入機会の拡大を図り、将来のジョイントベンチャーも視野に入れて取り組みます。2011年12月にインド L&TグループのL&T Shipbuilding Limited社と造船技術供与に関する技術支援協定を締結しており、インド市場への参入に取り組んでいます。

2014年度に連結受注高2,700億円、連結売上高2,500億円超を目指します。また、生産体制の再構築、資材費低減活動の推進による収益改善に加え、エンジニアリング事業の増大により、営業利益80億円超を目指します。

\*1 エンジニアリング: プロジェクト・チームの知識・技術(人材のポテンシャル)を活用して、社会のニーズを満たす設備やシステムを設計・構築する手法。